

2008年10月30日

日本材料学会
複合材料部門委員会
委員各位

日本材料学会
複合材料部門委員会
委員長 北條正樹
庶務幹事 日下貴之
担当委員 琵琶志朗

第219回 複合材料部門委員会のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、下記要領にて第219回複合材料部門委員会を開催いたしたいと存じます。今回は日本複合材料学会関西支部および日本非破壊検査協会新素材の非破壊評価特別研究委員会との共催により、複合材料の非破壊検査や構造健全性評価に関して4件の大変興味深いご講演をいただくほか、株式会社島津製作所のご協力により、同社テクニカルセンターの見学会を予定しております。ご多用とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席いただけますようお願い申し上げます。

敬具

記

開催日時: 2008年11月21日(金), 11:00~18:00
開催場所: 株式会社島津製作所 本社・三条工場, SATIO 21
京都市中京区西ノ京桑原町1, Tel: 075-823-1111
<http://www.shimadzu.co.jp/aboutus/access/map/sanjo.html>
※ JR 京都駅から地下鉄・烏丸線に乘車, 「烏丸御池」駅にて地下鉄・東西線に乗り換え, 「西大路御池」で下車. ④出口を南へ徒歩 250 m, 三条通を西へ右折し 100 m 進むと正門があります(添付地図参照).
共 催: 日本複合材料学会 関西支部
日本非破壊検査協会 新素材の非破壊評価特別研究委員会

ビジネスミーティング(11:00-12:00)

複合材料部門委員長 北條正樹

- ・ 次期総会併設行事, JCOM-38 準備状況, IWGC-6 報告, ACCM-6 報告等

休憩・昼食(60分)

研究討論会・施設見学会(13:00-18:00)

(1) 挨拶(13:00-13:10)

日本材料学会複合材料部門委員長, 日本複合材料学会関西支部長 北條正樹
日本非破壊検査協会新素材の非破壊評価特別委員会主査 小倉幸夫
日本複合材料学会会長 武田展雄

(2) 話題提供1(13:10-14:10)

「高分解能分布型光ファイバーセンサシステムを用いた複合材構造の構造健全性評価」
東京大学大学院・新領域創成科学研究科 武田展雄

(3) 話題提供2(14:10-15:00)

資料 2

平成20年11月1日

部門委員会委員長・幹事各位

社団法人 日本材料学会
新公益法人制度対応WG

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は学会活動にご尽力賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年、今年と部門懇談会で説明させていただいておりますように、本年12月1日よりいよいよ公益法人の新しい法律が施行され、本会は公益社団法人として認定申請を行うため種々の準備を進めており、各部門委員会にもご協力をいただいているところです。

10月20日開催の第9回部門懇談会では、学会全体の事業を公益目的事業として申請するための準備についてご説明いたしました。

公益等認定委員会が示すところの公益目的事業を満たす要件は下記のようになります。

- A 学術及び科学技術の振興を目的とする事業
- B 不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの
- Aの要件を満たしかつBに合致していること

特に「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する」という要件を満たすためには、現在会員限定としている事業は公益性がない共益事業とみなされる可能性が高く、会員外の受入を可能とするような方法の検討が必要となっております。

そこで各部門委員会におかれましては、現在部門で行われている下記の事業について、会員外への公開を可能とするように、ご検討をお願いいたしたく存じます。

定例の部門委員会

多くの部門委員会では、定例の部門委員会は委員にのみ案内するという原則クローズの形をとっておられると思いますが、委員外、会員外の参加を可能とすることができるようにご検討をお願い致します。

例えば、会員外の参加者については委員会費より若干高い設定の参加費を徴収することにより参加可能とする、委員以外の会員は部門委員会のルールにしたがって参加費を徴収することにより参加可能とする、など。

部門委員会で設けている賞

受賞対象者を会員のみとしている賞について、会員外をも対象に含めることができるようにご検討をお願いいたします。

例えば、賞規定から会員対象の文言を削除するなど。

この件は、各部門委員会で充分時間をかけてご検討いただくべき事項とは思いますが、申請の準備の都合もございますので、まずは上記の点につきまして、平成21年3月末日までにご検討いただき不都合がある場合はご連絡下さい。

ご参考までに本部事業で会員限定としている事業についての公開に向けての検討状況をお知らせいたします。現在検討中のものは、結果がわかりしだい改めてお知らせさせていただきます。

会誌「材料」投稿について

議題

- 1) 材料学会の公益法人化に向けての本部からの依頼
- 2) 部門委員会規定の改正
- 3) 2009年5月の総会併設行事の企画(黄木+北條)
- 4) JCOM-38の準備状況(櫻井)
- 5) IWGC報告(小沢)
- 6) ACCM報告(上野谷)
- 7) 特集号の編集状況(黄木)

特に1)とこれに関連する2)に関して、あらかじめ説明をさせていただきます。いずれも、10/20の部門懇談会(部門委員長と本部役員との会議、北條出席)および企画事業委員会(櫻井幹事出席)における本部からの説明内容とその対応策です。あらかじめご検討をよろしくお願い申し上げます。

1) 材料学会の公益法人化に向けての本部からの依頼

1-1 部門等の各種事業が公益目的事業に該当するかどうか

現在会員限定としている事業(定例部門委員会およびシンポジウム)については、公益事業認定に抵触するおそれがあることから、会員外の発表についても可能となるよう、今後改めて欲しいとの依頼がありました。まずは、第58期の総会(2009年5月)において会員外の発表を可とすることになりました。JCOM-38(2009年3月)については対象となりませんが、39以降は考慮する必要があります。会誌「材料」の投稿資格なども同じ扱いになるものと思われます。

ただし、上記の基本方針が決まっているだけで、具体的に会員外の参加費や投稿料の設定などの条件をどのようにするのかは、まだ決まっておりません。「部門協議会」でも、「本部の方針をすぐに決めていただき、これに準じて各部門委員会の方針を決めたい」との意見が出ましたが、「時間的制約で、本部と部門委員会が並行して議論を進めざるを得ない」ようです。

当部門委員会としても、本部の総会や理事会により情報が入る毎に、臨時の幹事運営委員会や総会をたびたび開催することは物理的に不可能です。可能な方法として、幹事や委員の皆様と、メールなどで議論をして、部門委員会の運営のやり方を変更していくことが考えられます。

1-2 平成21年度事業計画と予算書提出の提出期日の繰上げ

公益法人化に対応して、事業計画と予算書提出の締切りが2009年2月16日と設定されました。「部門協議会」の席上で、当部門委員会では上記事項は総会の議決事項となっており、かつ本年度の委員会スケジュールから、総会は3月のJ-COMシンポジウム会期中の開催となり、現在の規定では締切りまでに提出することが不可能であることを申し上げました。しかし、この申し出をしたのは当部門委員会のみで、本部として我々の受け入れてもらっておりません。「総会」を開かないと重要な会務が進行できないのは、私の知る限りで当部門委員会に限られており、これが主な理由ではないかと考えております。

この件に関しても、我々だけが本部に抵抗をするのは不可能です。可能な方法として、幹事や委員の皆様と、メールなどで議論をして、本部の締切りまでに事業計画と予算書を提出することが考えられます。

澤田吉裕委員(081118)

<提出期日の繰上げ>

公益法人化の初年度だけの処置ですか？それとも今後は早くすることを続けるのでしょうか？今後も早くしなければならない理由の説明はありましたか？初年度だけの処置でしたら、今年度だけの緊急処置で乗り切れると思います。

<部門委員会規程>

議題や審議内容を審議日より一定期間（2週間？）以上前に部門委員全員に連絡することと、審議後の確認に異論の集約の両方を行うことを提案します。

そして「決定の繰り延べ」について、「異論が委員数の20%を越える場合」を例示されていますが、返信を全くしやうとしない人が相当数いると予想しますので、例示の割合よりも少ない割合で、あるいは分母を全委員数ではなく、意見表明者数とすることの検討を提案します。また、この集約作業をメールで行う場合の透明性の確保はどのようにするのかの検討も必要と思います。

ビジネスミーティングで従来の総会で決定していたことの承認を得ることが好都合だというお考えであることは理解できますが、従来の総会でやってきた、各年度の活動のまとめや委員長・幹事役の交代などのケジメをどのように実行するのか、あるいは一切ナシにするという案なのかが私には理解できません。

下記の一段落は081120 補足説明

「総会をどうしても」という理由はわかりませんが、年度ごとのケジメをしないでも良いのでしょうか？他の委員会のことは私は知りませんが、締めくくりをするのが通常と思います。年寄りの固定観念かも知れません。

昨年度から懸案になったままの、委員の所属機関による分担金の違いに関してはどのように整理されますか？公益法人化と関係はありませんか？継続審議状態のために、新規委員の受け入れがペンディングの状態を長期間続けているのは好ましい状態ではないと思います。

ご苦勞様ですが、よろしくお願いいたします。

岩下哲雄委員(081117)

(冒頭の挨拶などを省略)

他学会の話を耳にしますと、公益法人化の動きは、仕方のないことと、たいへんな労力がかかっていると思います。親学会の意向もありますので、JCOMの部門委員会総会の前到来年度予算を提出するのはやむを得ないと判断します。今週21日は、出席できませんが、下記委員長の提案の方法に賛同いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上

3/5

第58期通常総会・学術講演会併設公開公開部門委員会

～複合材料に関する最新の研究と技術開発～

主催 日本材料学会（複合材料部門委員会）

共催 日本複合材料学会西部支部

協賛 東レ(株)

日時 平成21年5月22日(金) 13:30～17:00

会場 東レ(株)愛媛工場トラスホール (〒791-3193 愛媛県伊予郡松前町大字筒井 1515)

*会場へは松山空港よりバスでご案内します。部門委員会終了後、バスにて松山市内（松山市駅、愛媛大学）へお送りします。

趣旨

近年、複合材料は航空機、自動車などの輸送機器分野をはじめとして、風力発電、タンク・圧力容器、電気・電子などさまざまな分野において、その用途と重要性が増してきております。複合材料部門委員会では、今回、複合材料の生産現場である東レ(株)愛媛工場において講演会を開催いたします。これにより最新の研究成果に関する知見と産業界の動向が得られることが期待されます。複合材料部門委員会の皆様ならびにこのテーマに関心をお持ちの方々の多数のご参加をお待ちしております。

参加登録料 1500円（総会・講演会参加者は追加料金なし＝登録料と同額で参加）

事前登録 バス乗車ならびに工場入構のため事前予約定員制（定員50名、先着順）とします。「複合材料公開部門委員会申込」と題し、(1)氏名、(2)勤務先名・所属部課名、(3)連絡先（郵便番号・住所・電話番号・FAX）を明記の上、下記までFaxまたはE-mailにてお申込みください。なお、見学会についてのみ同業他社の方はお断りさせていただきますのでご了承ください（講演会は聴講可能です）

愛媛大学大学院 理工学研究科 生産環境工学専攻 黄木景二

Fax: 089-927-9707, E-mail: kogi@eng.ehime-u.ac.jp 所在地 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

3/5

プログラム

12:40 松山空港集合、バスにて会場へ

13:30-13:40 【開会のあいさつ】 複合材料部門委員会委員長

13:40-14:25 講演1：航空機構造用 A-VaRTM 材料 和田原 英輔（東レ）

14:25-15:10 講演2：A-VaRTM 技術による航空機1次構造材の生産 山本 晃之助（東レ）

15:10-15:20 休憩

15:20-16:05 講演3：超高圧複合容器の内圧負荷実験と有限要素解析 岡本 伸吾（愛媛大）

16:05-16:15 休憩

16:15-17:15 見学会（ショールームなど）

17:15- 東レ出発（18:00頃松山市内到着）

*バスチャーター代 大型1台 7万円程度

*タイトル、発表者は変更される場合があります。

付録6

JCOM-38
一材料・構造の複合化と機能化
に関するシンポジウム
発表募集



開催日 平成21年3月10日(火)・11日(水)
発表申込締切 平成20年12月8日(月)

主催 日本材料学会
共催 日本複合材料学会関西支部
協賛 (予定) 複合材料界面科学研究会, 強化プラスチック協会, 日本機械学会, 日本航空宇宙学会, 先端材料技術協会, 高分子学会, 日本金属学会, 日本接着学会, 日本繊維機械学会, 関西FRPフォーラム, 化学工学会, 軽金属学会, 自動車技術会, 精密工学会, セメント協会, 繊維学会, 炭素材料学会, 電気学会, 土木学会, 日本化学会, 日本建築学会, 日本ゴム協会, 日本材料科学会, 日本材料強度学会, 日本生体医工学会, 日本船舶海洋工学会, 日本塑性加工学会, 日本鉄鋼協会, 日本電子材料技術協会, 日本バイオマテリアル学会, 日本非破壊検査協会, 日本木材学会, 日本レオロジー学会, 表面技術協会, プラスチック成形加工学会, 溶接学会, 次世代金属・複合材料研究開発協会, 日本プラスチック工業連盟, 近畿化学協会, 中部FRPフォーラム, ほくりくACM研究会, フィラー研究会, プラスチック技術協会

趣旨 近年, 単に「FRP」という材料の視点だけでなく, 「複合」の思想や概念をもとに, 「力学や構造」と「機能」を組み合わせ, 「知能化」「グリーンコンポジット」「ナノコンポジット」をはじめ多くの新たな発展が見られます。これら新分野のOSを取り入れ, 次世代の研究発表と交流の場所となることを指向して, シンポジウム「JCOM」を今年度も実施します。今回は「JCOM」に改称後3回目に当たり, さらなる飛躍・発展を目指し, またこれまでに寄せられたご意見ご要望を踏まえて, 実施方法を若干変更しました。多くの方々の発表をお待ちしております。なお, 本シンポジウムは複合材料部門委員会(主担当)と生体・医療材料部門委員会(副担当)との共同企画です。

- ※1 本シンポジウムは, 日本材料学会 CPD 企画です。
- ※2 参加申込みの際にお届けいただいた個人情報は, 諸連絡, 行事事内等の日本材料学会の事業運営にのみ使用させていただきます。

開催期日 平成21年3月10日(火)・11日(水)
会場 同志社大学今出川キャンパス(寒梅館)
 〒602-0023 京都市上京区烏丸上立売下
 京都市市営地下鉄烏丸線「今出川駅」2番出口より北へ徒歩1分
 交通機関, キャンパスマップは下記をご覧ください。
<http://www.doshisha.ac.jp/information/facility/kanbai/>

発表種別 **講演発表 A**: まとまった内容でオリジナリティのあるもの。講演時間30分間(質疑応答10~15分含)
ポスター発表: 速報性を重視した研究発表, または新技術紹介, 技術展示など。ショートプレゼンテーションあり。
講演発表 B: 学部生あるいは修士学生を主著者とすものに限り。講演時間15分間(質疑応答5分含)
 いずれも日本語または英語で発表すること。
 なお, 発表登壇者は1人1件に限ります。

募集分野 OS: 1. グリーンコンポジット, 2. 生体・医療材料, 3. 量産車用コンポジット, 4. マテリアルデザイン(設計解析技術)

GS: FRP, MMC, CMC, スマート材料, ナノコンポジット, など複合材料全般を対象とし, 原材料, 機能, 設計, 数値解析, 試験・評価, 成形法, 界面, 知能化, リサイクルなどに関する基礎研究, 各種応用研究および産学連携研究について広く募集します。

なお, 日本材料学会複合材料部門委員会シンポジウム賞として論文賞, 奨励賞, 優秀講演賞並びに優秀ポスター賞が設けられており, 選考は同部門委員会選考委員会により行われます。各賞の詳細については複合材料部門委員会ホームページ(<http://compo.jsms.jp/>)をご覧ください。

発表申込締切 平成20年12月8日(月)
 (締め切り日以降は申し込み窓口を閉じます)

発表申込方法 日本材料学会複合材料部門委員会ホームページ(<http://compo.jsms.jp/>)中の申し込みサイトから以下の項目を入力してお申し込み下さい。

1. 発表種別(講演A, ポスター, または講演B), 2. 発表題目, 3. 発表者氏名・年齢(連名の場合には, 発表登壇者に○印)・会員種別, 4. 勤務先, 5. 連絡先, 6. 発表概要(200字以内)と希望するOSまたはGSのキーワード, 7. 特集号への投稿希望の有無, 8. 論文賞, 奨励賞への応募の有無。優秀講演賞, 優秀ポスター賞は, 日本材料学会学生会員の登壇者が自動的に対象となります。各賞に応募の場合は表彰対象者の会員番号を明記して, お申し込み下さい。平成20年末までに日本材料学会会員に登録された方も表彰選考の対象となることが出来ます。詳細は複合材料部門委員会ホームページをご覧ください。

なお, 発表の採否, 種別, プログラムの編成については, JCOM-38 実行委員会にご一任下さい。

発表論文提出締切 平成21年1月26日(月)(必着)
 ただし論文賞, 奨励賞への応募の場合は平成21年1月12日(月)(必着)

発表論文 A4サイズ 4枚以内(講演発表, ポスター発表とも)原稿はPDFファイルで作成し, Eメール添付にて提出していただきます。詳細な執筆要領は複合材料部門委員会ホームページをご参照下さい。なお, 原稿提出後の差替は認められませんので御注意下さい。

論文集 昨今の技術文書を取り巻く技術の進歩を考慮し, 今回より講演論文はUSBメモリーに入れた電子データの形態で提供します。講演会場へはPCをご持参いただくようお願いします。製本された講演論文集を必要とされる方には有償(会員4,000円, 非会員10,000円)にて頒布します。平成21年1月31日までに日本材料学会複合材料部門委員会ホームページ(<http://compo.jsms.jp/>)からお申し込みください。

参加費 会員(共催, 協賛学会を含む) 8,000円(一般) 3,000円(学生)
 非会員 18,000円(一般) 6,000円(学生)
 いずれも講演論文データを収録したUSBメモリー代を含みます。

問合せ先 〒606-8301 京都市左京区吉田泉殿町1-101
 日本材料学会「JCOM-38」係
 FAX: (075) 761-5325, TEL: (075) 761-5321
 Email: jimu@jsms.jp